

～藤本英人さんを偲んで～



日本木材学会生物劣化研究会

2010年9月

藤本英人さんのご略歴

- 1950年（昭和25年）生まれ
- 1974年（昭和49年） 京都大学農学部林産工学科卒業
- 1976年（昭和51年） 京都大学大学院農学研究科林産工学専攻修士課程修了
- 1979年（昭和54年） 京都大学大学院農学研究科林産工学専攻博士課程単位取得退学
- 1985年（昭和60年）1月まで（株）日本チバガイギー医薬研究部 勤務
- 1985年（昭和60年） 北海道立林産試験場（現；地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 林産試験場） 勤務（主に木材の化学加工を担当）
- 1988年（昭和63年） 京都大学から農学博士を授与される
“Production of Anti-swelling Particleboard”
- 1988年（昭和63年） 林業科学技術振興賞 研究奨励賞 受賞
「パーティクルボードの耐湿・耐水性向上に関する研究」
- 2001年（平成13年） 宮崎県木材利用技術センター 勤務（材料開発部長）
- 2010年（平成22年） 永眠

追悼文・追悼メール

日本木材学会 生物劣化研究会メーリングリストのメンバーを中心に、藤本さんと親交のあった方々から追悼のお言葉をいただきました（順不同，敬称略）。

「藤本英人君を悼んで」

藤本君はわたしが勤務していた京都大学木材研究所（その後、木質科学研究所、現在は生存圏研究所）の大学院を修了して北海道立林産試験場に赴任されたが、4年後輩であり、また研究室がわたしとは別のリグニン化学（現在の森林代謝機能化学）であったため、面識はあったもののそれほど濃いつきあいではなかった。

北海道立林産試験場での彼の研究で強く意識に残っているのは無水マレイン酸による木材の処理である。ちょうど木材の機能性向上を目指した化学修飾の技法が色々と開発されていた頃で、無水マレイン酸処理というユニークな方法を考案されたのが研究面で彼を深く知るきっかけであった。

ところが藤本君が宮崎県木材利用技術センターに移った直後、彼から客員研究員を頼みたいという連絡がきた。都城に新しく設立された研究所で保存関係を担当するというところで、シロアリ飼育室の整備や野外試験の設置についてご一緒することになった。真新しい研究所の実験施設の一室で、野外から採取されて来たばかりのシロアリの巣を目を輝かして説明していた様子、一ツ葉の道路沿いの松林の中に設置したボックスまで連れてくれ、シロアリが寄ってきたと言って楽しそうに案内してくれた姿が、今でも目に浮かんでくる。

熱心な研究者には、何ごとにも率直に感動する、自分で見た対象に同化するといった傾向が往々にしてあるが、藤本君もまさしくそういった性格の持ち主で、こちらは当然と知っていることでも新鮮に眺めるといった、まるで少年のような豊かな感受性の持ち主であった。そして彼の貪欲なまでの知的好奇心は、生物劣化研究会の幹事を担当されていた頃、そのグループメールに積極的な投稿を呼び掛けられていたことにも伺うことができる。

奇しくも今年の日本木材学会大会が宮崎で開催され、多くの方が彼に会い言葉を交わす機会をもたれたものと思う。学会参加者で同世代が集まった恒例の「団塊の会」を彼が準備し、いつものように談論沸騰したことを今は懐かしく思い出している。

彼はもっともっとシロアリと遊び、知恵比べしたかったものと思う。本当に残念で絶えない。心よりご冥福を祈ります。

今村祐嗣（京都大学名誉教授）

※藤本さんのご逝去に至る経緯について、宮崎県木材利用技術センター 荒武志朗氏からご連絡いただいた内容（抜粋）です。

今年2月の検診で、末期の膵臓がんと診断され、藤本さん自ら皆に公表されました。昨年12月頃から少し胃が痛い旨、周りには漏らしていたようです。本人は、可能な限り仕事を続けたいとの希望が強く、その後は毎週放射線治療を受けながら頑張っておられました(治療の日はかなりきつそうでしたが)。しかし、その努力も空しく、5月頃には肝臓や、骨等にも転移し、更には6月にはがん細胞による胆管圧迫のため黄疸も出始めました。それをきっかけに、手術の為に北海道に帰って手術をされました。その後、経過は良好との話でしたが、7月末の連絡ではトイレに行くのもままならなくなり、同31日に再入院したとの話を有馬所長から聞いておりました…。逝去されたのは8月11日の午前4時25分と伺っております。

私が最後に藤本さんと会ったのは、6月中旬、北海道に戻られる際に奥さんと当センターへご挨拶に見えたときでした。私が、『色々とお世話になりました。けんか相手がいなくなると寂しいです』と挨拶したら、『何だよ。もう帰ってこないみたいな言い方じゃないか』と笑いながら仰ってました。その時は、『しまった！余計なことを言ってしまった』と思いましたが…。

なお、葬儀は13日にご家族とごく近いご親戚のみでとり行われたようです。当センターからも2名ほど参列の予定でしたが、辞退されてしまいました。なお、都城のアパートは、彼の帰りを待っている状態ですので、奥様が時期を見て家財道具の引き取りに来られると伺っております。その時には少し詳しいお話が聞けるかもしれません。

以上、簡単ですが、ご報告まで。

宮崎県木材利用技術センター 荒武志朗

藤本君を偲んで

藤本君は京大林産工学科の5年後輩ですが、在学中から、互いに年齢差を意識しない付き合いをしてきました。研究室は別でしたが、私の研究室にも親しく出入りし、夜遅くまでよく語り合いました。北林試に在職中には木材の化学加工研究会の開催でお世話になり、講演会・試験場内の見学会からエクスカージョンに至るまで、実にきめ細かく面倒を見てくれました。宮崎県木材利用技術センターに転出後も、同所での化学加工研究会の開催に当たって多大の尽力いただき、また個人的には一昨年の秋に同センター開かれた講演会に客員として招いてくれました。この折りも至れり尽くせりの接待してくれました（彼の行きつけの Snackbar で若い女性に大変持てていたのが印象に残っています）。本年3月の木材学会宮崎大会で、いわゆる“団塊世代の会”の面倒を見ていただいたことは記憶に新しいところです。この時すでに病魔に冒されていたにもかかわらず、気丈に振舞い、来年の学会での再会を誓って別れたことが思い出されます。

みずから「器用貧乏」と言っていましたが、大変幅広い領域にわたって専門的な知識を有し、研究の殻に閉じこもることなく、研究成果を社会に還元することにも積極的でした。また、きわめて忠実で、サービス精神の旺盛な人であったことは誰もが認めるところではないでしょうか。宮崎では海釣りを楽しんでいたようで、仕事一辺倒でない面も垣間見ました。今後益々活躍してくれるものと期待していましたので、あまりにも呆気なく逝ってしまったことが残念でなりません。

単身赴任でいろいろと不自由な生活だったかと思いますが、ご家族のもとでゆっくり休んで下さい。心からご冥福をお祈りいたします。

京都府立大学名誉教授 湊 和也

藤本英人さんが急逝されたとお知らせを受けて、大変驚いています。昨年10月に京都で「木材の化学加工研究会」があった折、昼食時に他の数名の方と一緒に食事をし、最近の研究を話題にしながら懇談したことが懐かしく思い出されます。その時は大層お元気な様子であり、こんなに早くお亡くなりになるとは思っていませんでした。

私の在職時十数年前になりますが、当時勤めておられた北海道林産試験場を訪問した際には、空港まで出迎えてくれ、試験場を懇切丁寧に案内され、藤本さんご自身の研究も紹介していただき、色々と意見交換をしました。また島根大学にも来て、特別講義をしていただくなど、大変お世話になりました。

最近はシロアリ研究に意欲的に興味を持たれたようで、ユニークな着想での研究の発展に期待していただけに、藤本さんのような有為な方を亡くして本当に残念でなりません。

ここに藤本英人さんのご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますと共に、衷心よりご冥福をお祈り致します。

島根大学名誉教授

古野 毅

藤本さんと最後に酒を酌み交わしたのは、今年の3月宮崎で開催された木材学会大会の時です。学会の時に団塊の世代が集まってささやかな会合を開くのが慣例ですが、彼にはこの時の幹事としてお膳立てをしていただいたのです。この時すでに病に冒されたことはわかっていたわけですが、皆と屈託なく杯を傾けながら楽しんでいるように見えました。

藤本さんとは、北林産試時代、少しですが一緒に仕事や遊びを楽しむ機会も有りました。確か、マレイン酸・グリセリンによる改質技術を彼が開発していた頃のことです。彼も釣りが趣味の一つでしたから、京大の則元先生や樋口先生とともに一緒に岩魚釣りに行ったりもしました。仕事も釣りもはっちゃきになってしていたことが印象深く残っています。

それからしばらくは、私が転出したこともあって、疎遠になっていましたが、彼が宮崎に異動したのを機に今度はシロアリをキーワードに付き合いが始まりました。宮崎にはシロアリ被害が多く、木材保存を彼が担当するようになったからです。センターが発足後しばらくしてから、客員として招いていただいた時には、鯨油を使った防蟻工法の痕跡がある神社の建物を案内していただいたり、当時はあまり知られていなかったアメリカカンザイシロアリの標本を見せていただきながらシロアリ防除への熱い思いを、焼酎を傾けながら、聞いたものです。

彼は、北林産試当時から自信を持って仕事に励んでいましたが、遺稿になってしまった「しろありはひらひらしたフィルムに蟻道を作らない」(しろあり No.154 2010年7月)の解説にあるように、自分の非力さを口にするようになっていたのは、病に冒されて気が弱くなっていたせいなのかもしれません。もし、病に冒されていなかったら、今頃はシロアリに打ち勝つ新たな代案を持って私たちの前で例の調子で力強く提示してくれたことでしょう。

60歳という若さで死を宣告されても、最後まで淡々と仕事に励んだ藤本さん、さぞかし悔しかったと思いますが、その悔しさをバネに天国でもまたご活躍ください。合掌。

追悼 藤本英人さん

藤本さんが、ご還暦を前に急逝してしまわれたのは本当に残念で、いまだに信じがたい思
いです。先日その悲しい知らせを電話で受け、奥様にお悔やみ状をお送りしたのですが、
投鍼する際にも、ひょっとしたら、この知らせは誤報で奥様にとんだ失礼をと、お詫びし
なければならぬのでは、という気持ちがよぎった様な次第です。藤本さんのご冥福を心
からお祈りいたします。

もう30年も前になりますが、私が昭和55年春に当時の京都大学木材研究所リグニン化
学部門（樋口隆昌先生の研究室）に修士1回生として入れていただいた際、藤本さんは研
究室の大先輩で大学院生の最年長でした。私は最下級生で、研究は言うに及ばず生活面
でも藤本さんにはいろいろ大変お世話になりました。本当にありがとうございます。今で
も当時の先輩方にお目にかかる際には、話が当時のいろいろに及びまして、楽しい貴重な
思い出となっております。なお、添付写真は、昭和55年4月（もしくは5月初旬）の京
都大学木材研究所リグニン化学研究室の記念写真（研究室に1年間滞在された米国林産物
研究所T. Kent Kirk 博士の離日前の記念）です。申すまでもありませんが、藤本さんは
後列左から2人目です。

藤本さんは、旭川から宮崎に移られてからは、京都により近くなったこともあり、私ども
の研究室にもよくお立ち寄りいただきました。そして、日本の木材産業の実地についてい
ろいろご教示いただきました。また、藤本さんは大学院時代リグニンの生合成についても
ご研究でした。そのお仕事は世界のリグニン研究の中でも嚆矢となるもので、今でもリグ
ニン生合成研究の歴史を語る際には、まず初めに引用されています。私は、縁あって今か
ら20年ほど前から、大先輩の後塵を拝させていただき、リグニンの研究を続けておりま
すが、リグニン研究の進捗についてもいつも気にかけていただき、いろいろお励ましをい
ただきました。本当にありがとうございます。

藤本さんは、ずっと大学院生時代と全く変わらぬスリムな体型を維持しておられ、また、
いつも軽快に行動され成人病とは無縁のように拝察しておりましたが、本当に残念です。
どうか安らかにお休みください。

合掌



京都大学生存圏研究所
森林代謝機能化学分野
梅澤 俊明

藤本部長とは、同じ職場に「ふじもと」が二人いたことから、「ふじほん」、「ふじげん」と呼ばれる仲でした。センター開所当初には意見が合わないところもありましたが、その後は、いつも気を遣って頂き、ありがたく思っております。趣味の釣りに行かれた後も、たくさん釣れたからといって、わざわざ小生の自宅まで届けて頂いたり、大変お世話になりました。また、藤本部長は、化学的な分野に限らず、色々な事柄に関して幅広い知見を持っておられており、企業相談の応答等では、助けて頂くことが多々ありました。なお、職場では、あえて苦言を呈されるようなことがよくありましたが、これも他の人のためにわざと悪者役を買ってでておられたのではないかと思います。本当は非常に気持ちの優しい人であり、その分、抱えるストレスも大きかったのではないかと思います。本当にお世話になり、ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

藤元嘉安

宮崎県木材利用技術センター

木材加工部

ご遺族の方々へ ー藤本さんのことー

(独)森林総合研究所東北支所長 山本幸一

北林産試から宮崎に移ってから、シロアリに興味を持たれたのだと思います。記憶では、伝統的な塩を用いた防除法の再評価やシロアリの生態を利用したフィルムによる防除法などを色々な場面で発表されていたと思います。場所・場所に合った研究テーマを、自分で見つけることの出来る素晴らしい研究者であったと思います。

最新の「シロアリ」誌7月号42-44頁に、「シロアリはヒラヒラしたフィルムに蟻道を作らないーフィルム型シロアリバリアーの効果と限界ー」と言うトピックを寄せられていました。それは、過去数年間の試みと成果がまとめられたものです。

「5. 今後の展開」の項目の最後は、「ヒラヒラしたフィルムに蟻道をのばさないことを発見したときは、シロアリに勝ったと思ったが、その後の検討でやはりシロアリには勝てないと思うようになった。シロアリは本当にタフであることを実感した」と言う文章で締めくくられていました。訃報を聞く前に読んだのですが、この実直な文章が印象的でした。膵臓ガンで闘病中であることは知りませんでした。その様な状況の中で纏められた文章であったのか、と今読み直しました。藤本さんは現段階では、シロアリに勝つ負けるではなくて、タフなシロアリと上手に棲み分ける事が大切だと総括し、次の目標に進もうと考えていたと思います。あの世に旅立たれ、現世でその仕事が継続できず残念だったと思います。ご冥福を祈ります。合掌。

北海道立総合研究機構 林産試験場の本間と申します。藤本さんには林産試験場 化学加工科長在任中、平成4年～13年の10年間御指導いただきました。まだまだお若かっただけに、この度の訃報に接しまして言葉が詰まります。

藤本さんは、林産試験場在職中に、MG処理、木材・金属複合パイプ、カラマツ由来資源の利用技術、カラマツ材のアンモニア着色等多くの技術開発に携われました。私もグループの一員として手伝わせていただきながら、技術開発の取り組み方等について学ばせていただきました。現在、化学加工担当の職務を引き継がせていただいておりますが、藤本さんが開発された技術は民間企業から多くの技術相談、技術指導の要望があり、特許の実施契約も継続しているところです。

宮崎県に移られてからも、御自宅に帰省等の折りには必ず林産試験場に立ち寄られ、多くの御助言をいただきました。今年の春に立ち寄られた際にはとてもお元気そうで、ご病状についても伺いましたが、すぐには信じられなかったのを記憶しております。これからさらに御活躍の場が広がると思っておりましただけにとても残念です。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

北海道立総合研究機構 林産試験場

利用部マテリアルグループ主査（化学加工）

本間千晶

まずもって、藤本さんならびにご親族の方々に深く哀悼の意を表します。

藤本さんには、藤本さんが北海道立林産試験場で化学加工科長をされている時の科員として、大変お世話になりました。当時、まだ配属されて間もない私を気遣って、夜遅くまで一緒に実験をしてくれたこと・・・、木材をアンモニアで実大処理する試験の際にお互いに涙で目を真っ赤にしながら作業をしたこと・・・、ご自宅での食事に度々ご招待いただいたこと・・・、いろんなことが思い出されます。時には叱咤激励に対して、もっともだと思いながらも生意気な口答えをしてしまったこともありました。

去る3月の宮崎での木材学会で昼食をご一緒させていただいた時、ご病気のことを伺いました。もう仕事なんか辞めて好きな事をして過ごされたら・・・と言った私に、「体が動くまで続けるんだ」と力強くおっしゃい、宮崎木技センターでのお仕事をライフワークとして取り組まれているのだなと思いました。

藤本さんは、研究者としてはもちろんですが、プレゼンターやコーディネーターとしてもとても才能のある方でした。自分の専門分野だけでなく、他の分野や社会背景など豊富な知識で、とても判りやすく、人を惹きつける話し方をされていました。「発表では、重要な結果をたった一つ判ってもらえればいいんだぞ」、「人の発表を聞くときは、内容だけでなくスライドの構成や色使いなど、なんでも参考にしろ」とのアドバイスは、今でもとても参考になっています。

もっともってご指導をいただきましたかったですし、お酒を酌み交わしながらいろんな話をしたかったな、と思います。まだ亡くなられたことが信じられずにおりますが、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(北海道立総合研究機構 林産試験場 長谷川祐)

北林産試においてはもちろん、2005年以降の高専勤務でも藤本さんとお付き合いさせていただいたことに感謝しています。この度の悲しいお知らせには、言葉での表現ができません。

昨年12月には、旭川高専を会場にした「平成21年度・日本化学会北海道支部講演会」でバイオマス利用技術の話題提供をお願いしました。元気はつらつとしたいつもの藤本さんでした。そして…8月21日にお焼香をさせていただきましたが、覚悟をしていたこととはいえ信じたくない現実でした。

手元に藤本さんと共同で検討していた未発表データがあります。当初、氏が特許申請を希望したことでお蔵入りしていました。近々の木材学会北海道支部研究発表会などで共同研究者「宮崎木枝セ 藤本英人」と共に公表したいと考えています。

ただただ、ご冥福をお祈りするばかりです。

旭川工業高等専門学校 富樫 巖

藤本さんのご逝去心よりお悔やみ申し上げます。

藤本さんとは、2007年度、2008年度の2年間

生物劣化研究会の幹事・副幹事としてご一緒させていただきました。

bd-woodの文面から、一緒に活動させていただいていたその頃には

すでにかん細胞に蝕まれていたのかと思いますと、あの頃の藤本さんのがんばりや

執念のようなものが、藤本さんの身体の中のかんと戦っていたように感じられ

悲しく思い出されます。

幸いにも健康をいただいている私たち、藤本さんに負けないよう

がんばっていかねければと誓いたいと思います。 合掌

(株)ガイエンス技術開発部 北田正司

藤本英人さま

藤本さんの突然の訃報を耳にし、とても悲しく残念に思います。

私が藤本さんのことを強く意識したのは2004年と、ごく最近のことでした。科学的な（その分単調な）発表が続く木材学会保存部門の講演に、私にとっては突如という感じで、藤本さんは現れました。

発表は電氣的なバリアでシロアリの侵入を阻止しようというものでした。シロアリとしてはバリアを乗り越え先に進みたい、でもバリアに触れるとピリッとする、でも進みたい。その時のシロアリの逡巡を身振り手振りを交えながら説明されたのが、ついこの間に思い出されます。聴衆の方も、それまでのけだるい雰囲気が一変し、会場全体が大きな笑いに包まれたのは言うまでもありません。そういえば、ひらひら防蟻シートなんていう発表もありましたね。

おかげさまでその後は、毎年藤本さんの発表を楽しみに木材学会に通うことになってしまいました。しかし、それももう叶わないのですね。とても残念です。

ところで、藤本さんに関して一つだけ気にかかっていることがあります。実はベストプレゼン賞をまだお渡ししておりません。今度お会いする際お持ちしますので、期待せずお待ち下さい。

森林総合研究所 桃原郁夫

おわりに

第54回日本木材学会保存分野のベストプレゼン賞を筆者の独断で発表したい。

ベストプレゼン賞：

講演番号 Q51015

宮崎木材加工技術センター 藤本英人氏

受賞理由：

分かりやすいプレゼンテーションを通し各聴衆に電気ショックにより苦悶・感電するシロアリをイメージさせた演者の手腕は余人の追随を許さないものであった。

藤本氏のようなプレゼンテーションはなかなかできるものではないが、分かりやすいプレゼンテーションをおこなうのは発表者の義務だと考える。次回の学会は来春京都で開催される。本稿を読まれた方の一人でも多くが、藤本氏のプレゼンテーションに挑戦されることを祈り筆を置きたい。

木材保存、30:220-223 (2004)より抜粋

藤本さんを偲んで

今村先生の退官記念パーティのときでした。

私が松岡さん（高知県森林技術センター）と話しているところにやって来られた藤本さん。「実は膵臓がんで余命半年と言われてね」と一言。手にはウイスキーの水割り。それを飲みながら淡々と話されるので「悪い冗談を？」なんて言ってしまいました。

日本木材学会の年次大会ときは、抽出成分の発表セッションで行われた藤本さんの口頭発表を、栗崎さん（富山県農林水産総合技術センター）と一緒に聞きに行きました。そのときも、終了のベルを気にとめることもなく、20分は話されていたと思います。

それくらい、ずっと、平素と変わらないご様子でした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

森林総合研究所・大村和香子

藤本英人先生、今どうしておられますか？

私が、藤本先生と最初にお会いいたしましたのは、10年ほど前のことです。何かの学会の後の懇親会にて、初めて久しくお話しをさせていただく機会に恵まれ、あつかましくも宮崎県木材利用技術センターをご訪問する約束までしてしまいました。当時、斬新なシステムの研究所として話題になっている研究機関で、一度ご訪問したくてたまりませんでした。

早々に研究所をご訪問し、藤本先生に懇切丁寧なご案内を頂き、先生のお人柄に触れたような気持ちになりました。私はちょうど2回目の転職をしたばかりで、環境の変化に戸惑っていた時期でもあり、命の洗濯をさせていただきました。それからしばらくして、藤本先生よりご連絡を頂き、(正式な名称は忘れましたが)宮崎大学の松井先生、松下先生と「スギの抽出成分に関する研究会」を立ち上げるので、小林も参加しろとのことでした。私では役立たずかとは思いましたが、再度あつかましくもお世話になることになりました。それから6、7回程度、毎年年に1回の研究会が開催され、先生方はもちろん、宮崎県内やその他の地域の企業関係者からの成果報告やアイデア提案など、活発な意見交換が行われ、異業種の皆様との楽しい懇談の時間を過ごさせて頂きました。もちろん、会合の後の懇親会はまた格別でした。一度藤本先生にキャバレーというところにもお連れ頂き、初めての経験ながら、一方で、普段難しい顔をされている先生の別のお顔を拝見し、失礼ながら、益々先生に親しみを感じさせていただきました。先生はお昼の部も夜の部も、たいへんお世話上手で、参加者を楽しませる術をご存知でした。

宮崎県木材利用技術センターでも他の公設研究所と同様、保有の試験装置を有償で使用させて頂ける制度があり、一度これを利用して頂き、研究所の最新の原子吸光度計を利用させて頂きました。当日ご訪問いたしましたすと、先生が申し訳なきように「この装置は未だ、誰も使ったことがなく、悪いけど説明書を読んで、適当に使って欲しい」とのことでした。びっくりすると同時に、誰も使っていない機械を始めて使うのが私ということで、不安と万一壊れたらどうしようと言う気持ちから、必要以上に緊張しました。研究所の皆様には内緒ですが、自動注入装置のノズルを5本壊してしまいました。

2006年には、宮崎県の客員研究員にご推薦頂き、恥を忍んでお受けさせて頂きました。研究所での勉強会開催の後、先生と共に3日間、都城、霧島、宮崎市内と精力的に木造建築物や木橋を見て回りました。ちょうどその頃、藤本先生が「しろあり」誌に、宮崎県に伝わる伝統的な防蟻対策を投稿されておられました。これは、神社などにおいて床束を支える基礎に溝を掘り、その中に鯨油を流し込むことでシロアリの浸入を防止するというものでした。実物を拝見し、先人の知恵に触れることができました。また、霧島では、秘湯にお連れいただきました。

先生は車に対してある種のこだわりがあり、基本的にはオートマチック車は運転しないということで、その日も愛車のマニュアルミッションの車を駆って、霧島山系の奥深くに入りました。公務中は私用車は使えないとのこと、やっと自分の車に戻り、ほっとされたのか、多少暴走族的な技術に驚かされました。しかし、運転技術はたいしたものでした。くねった山道を自由自在に車を走らせておられました。真っ暗な山中に、ぽつんと1軒の温泉湯治宿があり、男女混浴の露天風呂がありました。宿までは、先生ご自慢のLED懐中電気で足元を照らしながら進み、宿からかなり下がったところにある露天風呂で汗を流しました。混浴でもあり、浴槽の中央にはご婦人達が堂々と陣取りをされていましたので、先生と私は、端の方に申し訳なきように浸かっておりました。今度、ゆっくりとこの宿に泊って、一杯やりましょうとお約束いたしました。これも叶わなくなりました。

また、先生のお心遣いの思い出として、私の父が他界いたしました折に、誰が先生にご連絡したのか今となっては分かりませんが、先生のお耳に届き、ご自身はお忙しいとのこと、大阪に在住のご母堂様にご連絡くださり、当日ご弔問を頂きました。驚きましたと共に、先生のお心遣いに、涙が止まりませんでした。

藤本先生とは、「いつか」というお約束をたくさんしていました。これがもうできないかと思うと、残念でなりません。先生の明るい笑い顔が今でも浮かんできます。心よりご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご遺族に皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。「藤本先生、別の世界に行かれましても、スギと木材保存のご研究をお続けください。」

小林智紀 (三和インセクティブ(株))

藤本英人さんとの思い出を、2つお話いたします。

1つ目は、数年前の広島での木材学会会場でのことです。藤本さんは、そのとき、生物劣化研究会の幹事をされていました。休憩時間に、「生物劣化研究会、出席してくれますよね」と私は声をかけられました。「ええ、まあ」みたいな、曖昧な返事をしたように思います。というのは、私は、子供を、木材学会が準備してくれた託児室に預けており、生物劣化研究会の時間帯は、子供と近くの動物園に行く約束をしていたのです。結局、子供に押し切られてしまい、研究会は欠席してしまいました。熱心に幹事の仕事をされていた藤本さんを、裏切ったような気分で、次に会ったら、謝ろうと思っていたのですが、それっきりになってしまいました。

2つ目は、さらに昔の話です。北海道林産試から、宮崎県木材利用技術センターに、所属が変わることになられた時のことです。私は、てっきり、ご出身が九州で、親のこともあたりで、ふるさとに戻られるのかなと思いました。お尋ねすると、ご出身は大阪とのこと。「ずっと研究を続けたいので、宮崎県に行くことにした」といったお返事だったと記憶しています。そして、本当に、お亡くなりになる直前まで、研究をなさっていた姿を思い出します。

ご冥福をお祈りいたします。

奈良県森林技術センター 酒井温子

藤本英人さんを偲んで

訃報を聞いて、重苦しい、やりきれない思いでした。やはり、病魔には勝てなかったのか！今年3月、ご本人から、直接、癌で余命短いことを明かされ、びっくりすると同時に、なんと申し上げていいか言葉を失いました。もう少し、話をしていればよかった。残念です。振り返ると、2年ぐらい前だったか、京都駅の近くの居酒屋で楽しく飲んだ時のことがなぜか鮮明に思い出されます。研究のことや県の事務処理のことなど、真摯に熱弁を振るう姿が今なお、私の脳裏に焼き付いています。どうか安らかに眠りください。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年8月17日 松岡良昭

近々、部長がシーズンには毎週のように通われていた宮之浦の防波堤にビールを献げに行きます。

宮崎県東臼杵農林振興局椎葉駐在所 上杉基

(元 宮崎県木材利用技術センター職員)

個人的にお話させていただいたことはありませんが、藤本さんが幹事をされていた平成 20 年度秋期生物劣化研究会に参加したおり、親切に対応していただいたことが印象に残っております。シロアリとヒラヒラフィルムなど面白い発想をされる方だなあと思っておりました。これからもいろいろユニークな提案が期待されたのに本当に残念です。ご冥福をお祈りいたします。

田中裕美

近畿大学農学部応用生命化学科

森林生物化学研究室

藤本様の突然の訃報に接し、言葉を失っています。

どうかご遺族の皆様もお力をお落としになりませんよう、ご自愛下さい。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

森林総合研究所 木材保存研究室 松永浩史

藤本さんを偲んで

藤本さんが、林産試験場から宮崎県木材利用技術センターに転出されて10年近く経ったでしょうか。林産試験場では、アルカリ処理によるカラマツ材の調色、マレイン酸・グリセリン（MG）処理による木材の耐候性・耐朽性の向上、アルカリ可塑化木材による製品開発、木材・金属複合パイプの開発など、主に化学加工分野の研究でご活躍されていました。林産試験場に在籍された頃からご自分のお考えをハッキリと述べられ、興味を持たれたことはとことん質問されていたことを思い出します。

宮崎に移られてからは木材保存分野の研究にも着手され、北海道ではあまり縁の無かったシロアリ防除に関するさまざまな取り組みに挑まれるなど、保存の分野に新しい風を吹き込んでいただきました。また、以前に海虫も飼育している（あるいは飼育する予定）という話を伺ったことがありましたので、宮崎にお邪魔して、試験設備等を拝見しながらお話しをうかがおうと思っていましたが、叶わぬ願いとなりました。

今年3月の木材学会大会で、ご病気のことを知りましたが、ただ驚くばかりで、大会では結局まともにお話しできずに終わったことが悔やまれます。

藤本さんは、生物劣化研究会幹事および木材学会大会保存部門コーディネーターを務められていましたが、その後任にいずれも私をご指名いただきました。任期も残り少なくなりましたが、藤本さんからお叱りを受けたいよう、職務を全うしたいと思います。ただ、生物劣化研究会幹事の仕事として藤本さんの追悼文・メール集を取りまとめることになろうとは夢にも思わず、本当に残念でなりません。

お疲れ様でした。どうかやすらかに眠り下さい。合掌。

（地独）北海道立総合研究機構 林産試験場 森 満範

（生物劣化研究会幹事）

思い出アルバム

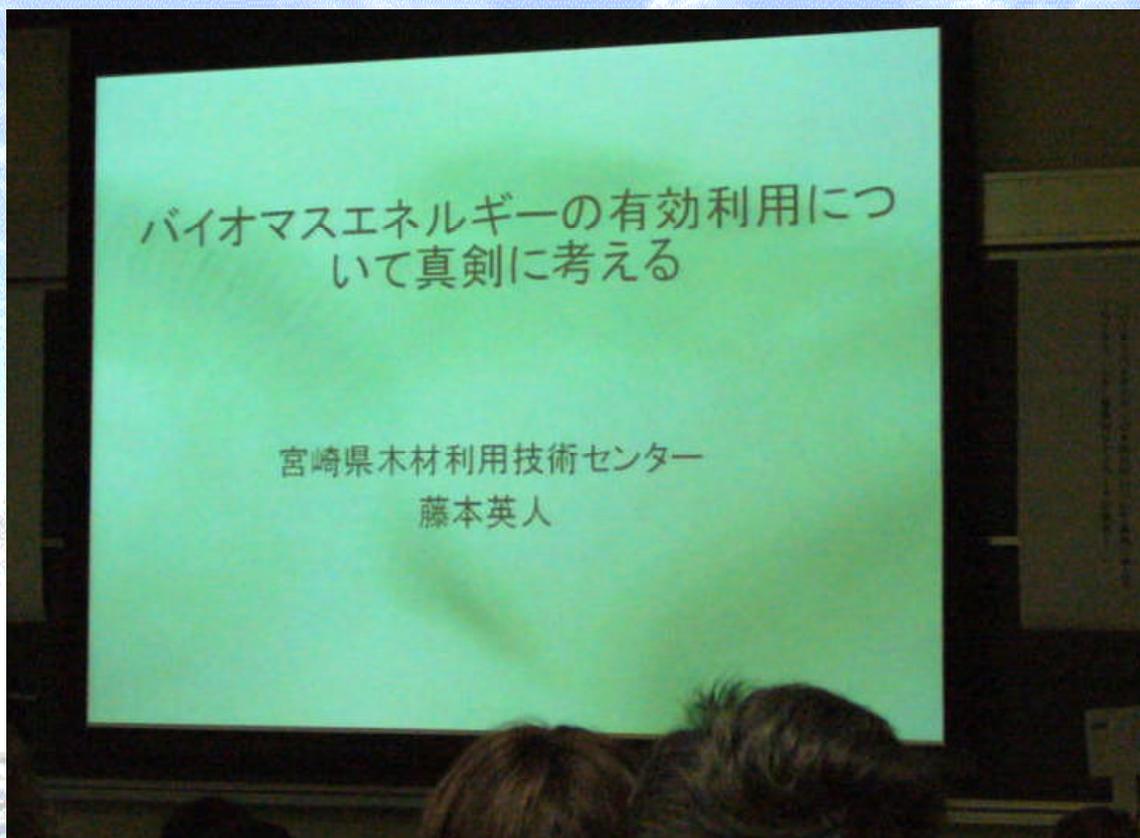
皆様からお寄せいただいた藤本さんのお写真です。在りし日の
藤本さんのご活躍ぶりがうかがえます。



2002年 センター外部評価委員会（前列 左から3人目，提供：上杉基氏）



2005年 支部大会宮崎現地視察（中央 左側，提供：上杉基氏）



平成21年度・日本化学会北海道支部講演会におけるご講演の様子ー 1
(2009年12月, 旭川工業高等専門学校にて, 提供: 富樫巖氏)



平成21年度・日本化学会北海道支部講演会におけるご講演の様子ー2
(2009年12月, 旭川工業高等専門学校にて, 提供: 富樫巖氏)

藤本さん語録

～生物劣化研究会メーリングリストから(抜粋)～

生物劣化研究会幹事として最初の研究会を
開催するにあたって

日時:2007年5月31日 14:00
件名:[bd-wood:00107] Re: 夏期生物劣化研究会のお知らせ

bd-woodの皆様、

新たに生物劣化研究会の幹事を仰せつかった宮崎県木材利用技術センターの藤本です。よろしくお願
いします。

板倉先生からのメールにありましたように、夏期生物劣化研究会を予定しております。

ところが、大きな問題があります。その中で、Michael Lenz 博士にはオーストラリアのシロアリ駆除の現状
や研究の最前線の話をしていただく予定にしております。大多数の方には問題ではないと思いますが、私
を含めた一部の方には大きな問題です。講演が英語オンリーです。同時通訳はつきません。

そこで、英語の苦手な人に講演内容をわかってもらうようにするにはどうすればいいでしょうか。皆様から
の提案をお待ちしています。

私からの提案は、事前に講演内容のスライドを「必要とする人のみ」にダウンロードできるようにしたいのです
が、いかがでしょうか。事前にスライドの文章・語句を「自分で辞書を見ながら」訳しておく、本番の講演
会の理解度がだいぶ違うような気がするのですが、いかがでしょうか。

このメーリングリストが活発になるように、問題を提起しました。どんなご意見でも結構です。よろしく願
いします。

いつも研究会を盛り上げようと努力されていました

日時:2007年8月15日 13:57
件名:[bd-wood:00113] 生物劣化研究会について

bd-woodの皆様

お世話になっております。宮崎県木材利用技術センターの藤本です。本日2回目の投稿です。

先日の研究会について何人かの方から、以下のようなお問い合わせがありました。

「研究会に入っていないのですが、講演会に参加してもいいですか」

「研究会に入りたいのですが、どうすればいいのですか」

「メーリングリストがあるとは知りませんでした」

ということで、皆さん方のお知り合いの方に下記の点をお伝えいただけるとありがたいと思います。

- ・生物劣化研究会(講演会)は誰でも参加できる
- ・メーリングリストは誰でも登録できる

メーリングリストの登録の仕方は、これを読んでいる方ならご存じのはずですから、是非、多くの方をお誘
い下さい。

それにしても、ここは静かなメーリングリストですね。フレーミングは嫌いですが、もう少し活発にしません
か。

HKさん、シロアリのベリーダンスの話をしてくださいませんか

WOさん、シロアリが塩を舐めたらどんな顔をするか教えてくださいませんか

JMさん、シロアリの巣が手に入ったらこのメーリングリストで「ほしい人募集」とかありませんか

他の皆さんも、面白い話、相談事、その他どんなことでも結構ですから投稿してみてください。

ということで、皆さんよろしくお願いします。

シロアリ談義でメーリングリストが盛り上がりました

日時:2007年9月7日 11:22
件名:[bd-wood:00116] Re: イエシロアリの生態情報をお寄せ下さい

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

板倉先生のメールに対する返信です。長文、失礼します。

- >>今イエシロアリはどの程度森林に入り込んでいるのでしょうか？
- >>全国的にはやはり住宅地、居住地の樹木から海岸林の松林等が主で、
- >>いわゆる山地にはまだあまり入り込んでいないのでしょうか？
- >>標高などの情報もあればよろしく御願います。

▽

ちょっと古い文献ですが、宮崎県南部で調査した結果の報告があります。
中島茂、森八郎共著(1961);「しろありの知識」、森林資源総合対策協議会グリーン・エージ編集室、東京

この本によりますと、宮崎県南部の都井岬の周辺ではスギ(いわゆるオビスギ)の立木被害がかなり多いようです。都井岬で25カ所(各10アール程度)を調査した結果、8カ所では被害が認められなかったものの、残りの調査地では立木のうちからイエシロアリの被害に遭っていることが報告されています。もっとも被害のひどい調査地では立木の53.8%、半分以上のスギがイエシロアリの食害を受けていたそうです。

そのほかにも、海岸から10km以上入った、榎原(“よわら”と読みます)や酒谷の杉林でもイエシロアリによる蟻害が立木の10~17%くらいに認められると書かれています。

松林についても調査が行われています。マツではイエシロアリと同時に、ヤマトシロアリも流木に被害を及ぼすようです。

なお、これだけひどい蟻害がありながら、あまり一般に知られていないのは山林所有者が秘密にするからと言われています。自分の山がシロアリ被害を受けているとわかると、木を高く売ることができなくなります。上記の文献を引用しますと以下の通りです。
都井岬産のスギのシロアリ被害には定評があり、立木の競売においては時価の1/3を持って取引され、2/3は“きじらびき”と呼ばれて買いたたかれ、……。
なお、この地方ではシロアリのことを「きじら」または「きじらみ(木虱)」と呼ぶそうです。

なお、紹介した本は絶版で入手できないと思います。どうしても原本に当たりたい方には、必要箇所をPDFにしてお送りしますので、メーリングリストではなく、直接藤本宛にご連絡下さい。

日時:2007年9月7日 14:21
件名:[bd-wood:00122] Re: イエシロアリの生態情報をお寄せ下さい

bd-woodの皆様

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

先ほどは「森林にどれくらい入り込んでいるのか」という観点から、中島先生たちの調査結果を報告しました。

こんどは、住宅近くを含めて、どのくらい内陸まで入り込んでいるかについて報告します。

都城市は海岸から40kmほど入った内陸部です。標高は154mですが、イエシロアリは生息しています。もちろん、屋外で土中に営巣しています。

都城市の年平均気温は16℃、最低気温はマイナス4~5℃で、年に数回、氷が張ったり雪が降ったり(何年かにいちは積もります)します。都城といえば南国のイメージが強いのですが、冬は結構寒いです。夏は・・・やっぱ暑いです!!!

40年ほど前の論文では、「都城にはイエシロアリはいない」と書いてありましたが、現在は間違いなく生息しています。温暖化の影響なのではないかですね。

前のメールで、「場所によってはスギ林の立木の半分以上がイエシロアリの食害を受けたとの報告がある」と書きましたが、現在、それほどひどいところは無いようです。あの本が書かれたのは昭和30年代で、拡大造林の盛んなときだったと思います。山を切り開いて植林した関係で、生態系が乱れ、イエシロアリに適した環境が広がっていたことが原因ではないかと思っています。

思えば即実行！

日時:2008年10月23日 9:14
件名:[bd-wood:00151] 研究会幹事印を作る件について

bd-woodの皆様

生物劣化研究会幹事の藤本です。お世話になっております。

標題の件です。
研究会の幹事をしておりまして、幹事の印が無いことに気がつきました。使う場面は下記のような場合です。

- 講演会の講師に書面で講演依頼を出すとき
- 地方自治体に後援依頼を出すとき
(地方開催の場合、県や市を後援団体しておく与会場費がタダになることがあります)

現在は私印で代用しておりますが、できれば幹事印を捺した方が良いと思います。持ち回りの書類とともに、幹事の印も持ち回りにすればいかがでしょうか。

皆様のご意見をお願いします。

- 昔作って、どこかにあるとか、ご存じの方は是非投稿してください
- 他の研究会も持っているとか、いないとかの情報をお持ちの方、よろしく
- その他、ご意見のある方、活発なご発言をお願いします

日時:2008年11月6日 10:40
件名:件名:[bd-wood:00156] 研究会の印鑑の件

bd-woodの皆様、

生物劣化研究会幹事の藤本です。お世話になっております。

標題の件で、皆様方のご意見を伺ったところですが、先輩幹事の方から「研究会の印は作ったこともないし、見たこともない」とのことでしたので、作成したいと考えます。

そこで、皆様のご意見を伺います。下記の仕様でよろしいでしょうか

21mm角(他に、18、24角などがあります)
「生物劣化研究会の印」と彫ります
金額は¥12,000程度

皆様のご意見をお聞かせください。
角印より丸印がいいとか、もっと大きい方が良くとか、字画が悪いとか、もっと金をかけて豪華にとか……。何でも結構です(ただし、できるかどうかは別問題です)。

独り言:何で生物劣化研究会には会長がいないのだろう。町内会にも木材学会にも会長がいるのに。印には〇〇会長の印と彫るのが普通のような気がする。

日時:2008年11月6日 17:07
件名:[bd-wood:00159] Re: 研究会の印鑑の件

bd-woodの皆様、

研究会幹事の藤本です。

- > 今頃の連絡で申し訳ありませんが、
- > 研究会の印の作成はもう少し待ってみてはいかがでしょうか。
- >
- > 日本木材学会は再来年の5月を目処に一般法人化する計画であり、
- > 法人化した場合研究会の会計についても連結決算(?)とする予定です。

▽
桃原さんからのメールが皆様に届いていることと思います。

ここは桃原さんの言われるとおり、もうしばらく待った方が良くかと思えます。次期研究会幹事のMさん、よろしく願いいたします。

桃原さん、貴重な情報をありがとうございました。

シロアリについていろいろと話題提供をしていただきました。

日時:2009年9月11日 17:16
件名:[bd-wood:00180] シロアリは光を嫌うか

bd-woodの皆様、

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

最近、メーリングリストが寂しいので、話題提供です。

昔からシロアリは光を嫌うといわれてきました。皆様はどのように思われますか？

私はガラス水槽で飼育しているシロアリにいろいろな光を当てたことがあります。かなり強力な懐中電灯やレーザーポインター(赤)を水層の外からあてて見ましたが、シロアリは全く反応しませんでした。それで、「シロアリが光に反応する」というのはウソだと思いこんでおりました。

ところが、最近、面白いことを発見しました。シロアリ(目が退化しているはずの職蟻も兵蟻も)は紫外線に反応します。たまたま薄層クロマトグラフィー用の UV ランプをシロアリに照射したのですが、パニックになりました。可視光線には全く反応しないシロアリですが、254nm の紫外線にはかなり強烈に反応します。もしも UV ランプをお持ちでしたら試してみてください。市販のブラックライトでもいいと思います。

実験をする上で注意することは以下の通りです。

- ・ガラスやプラスチックは紫外線を通さないので、必ず直接照射する
- ・スイッチは離れたところに取り付け、音や震動が伝わらないようにする

蝶やミツバチは紫外線が見えるといわれています。シロアリも昆虫ですから紫外線領域に感度が高いのかもしれない。

私はシロアリが紫外光を嫌う性質を利用して、ゴミとシロアリを分ける効率をアップしました。シャーレをひっくり返して、その上にゴミ混じりのシロアリをおいて自然に落ちるやり方です。シロアリが大きなゴミにまとわりついて、なかなか分離できないことが多いのですが、このときに紫外線を照射するとパニック状態になり、すぐに分離できます。ぜひやってみてください。

できましたら、このメーリングリストで実験結果を報告していただきたいと思います。

1. シロアリの種類
2. シロアリがどのような行動をしたか(しなかったか)
3. 照射した機器名
4. 波長
5. シロアリと照射機器(フィルター)の距離
6. その他何でも

ちなみに私のところは

1. イエシロアリ(屋外で採取して1週間飼育)
2. 照射と同時にパニック状になり、巣に引き返すものやとんでもない方向に逃げ出すものなどがいた。
3. ハンディ UV ランプ SUV-16(8w×2)
4. 254nm
5. 15~20cm
6. 懐中電灯の光では全く反応しない。365nm の長波長紫外線に対しては少し反応するが短波長(254nm)ほどパニックにはならない。

それでは、皆様からの報告を期待しております。

日時:2009年10月22日 17:16
件名:[bd-wood:00183] シロアリに関する話題提供(その 2)

bd-woodの皆様

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

相変わらず、メーリングリストが静かなので、再び話題提供です。知っている人も多いと思いますが、ご容赦を。

シロアリ兵蟻の大顎は槍かハサミかご存じですか？
答えは突き刺すための槍ではなく、ハサミです。

実験

1. 兵蟻をスライドガラスの上に瞬間接着剤か両面テープで固定します。
2. 兵蟻の顔の前に人間の髪の毛をつきだしてみてください。
3. 兵蟻の顔に触れたかなという瞬間に、スパッと切れます。

顕微鏡下でないと切れ端が見えません。本当に気持ちいいくらいにスパッと切れます。彼らの武器は本当に鋭利な刃物です。ただし、弱ってくると、髪の毛を挟んだままになります。

以前、イエシロアリ兵蟻とアリ(ハチ目アリ科の黒いアリ)を戦わせたことがあります。(注:遊びではなく、粘液を採取するためです)アリの大きさにもよりますが、ほとんどの場合アリの足がスパッと切られます。別のアリは胴体がまっぴたつに切られました。突き刺した例は一度もありません。

bd-woodの皆さん方も、何か面白そうな話題がありましたらぜひ書き込んでください。このMLを活性化にして、何でも書き込めるようにしませんか？

日時:2009年11月9日 17:28
件名:[bd-wood:00187] カンザイシロアリ室内防蟻効力試験用試験片について

bd-woodの皆様

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

アメリカカンザイシロアリについて実験をしようと思って試験体を切り出しているところです。

日本しろあり対策協会の「乾材シロアリ駆除処理用木材防蟻剤の室内防蟻効力試験方法および性能基準」に従って、木材片を切り出そうとしているのですが、3センチ角の二方桁辺材があまりとれなくて苦労しているところです。

そこで皆様はどのように調製されているのか教えてください。

考えられる解決方法は以下の通りです。

1. 移行材まで入れる
2. 四方桁でもかまわない
3. サイズが少し小さくてもかまわない(2.5 cm角とか)
4. 板として購入するのではなく、丸太を購入し、製材時にミカン割りしてもらう
5. その他

移行材は結果に影響する可能性が捨てきれませんので、入れない方がいいと思います。ただ、移行材は丸太の状態では確認できますが、切り出された試験片では移行材がはいっているかどうかわかりません。この意味でも、辺材の心材側は大きく切り取りたいのです。そうすると心材部がますます細くなり、3センチ角の試験片はとれなくなります。

個人的には三センチ角などという大きな試験片は必要ないと思います。2センチ角でも十分ではないでしょうか(その場合は孔の径を小さくする)。また、二方桁と四方桁で試験結果に差が出ると思いますが、どうでしょうか。2.5 cmの四方桁なら簡単に大量に作れます。

一番いいのは、ミカン割りしてもらうことでしょうか。「やってくれる製材工場があれば」ですけど。

皆さんのところでは、カンザイシロアリ用の試験片をどうされていますか。あるいは、まだのところはこれからどうされますか？

ご意見や解決方法をお願いします。

日時:2009年11月20日 13:47

件名:[bd-wood:00188] カンザイシロアリ室内防蟻効力試験用試験片いりませんか

bd-woodの皆様

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。私一人が書き込んでいるようで申し訳ありません。

標題の件です。カンザイシロアリ試験用のスギの辺材(二方柱!)を切り出しました。少し余っているので、もしも必要でしたらご連絡ください。

ただし、宮崎県産(いわゆるオビスギ系)ですので、年輪幅が広いです。私が良いものを選別した残りですので、予備試験用として使ってください。年輪幅は試験の結果に影響しないとは思いますが……。

3×3cmの棒状、長さは様々(長いもので50cmくらい)です。そちらで5cmに切ってお使いください。

早い者勝ちとさせていただきます。ご連絡はこのメーリングリストではなく、私のメールアドレスにお願いします。

生物劣化研究会メーリングリストでは、このメールが藤本さんの最後のご発言になりました。これから新たな取り組みに挑もうとされていた矢先でした。

日時:2010年2月18日 11:09

件名:[bd-wood:00190] 訂正します(bd-wood:00180 シロアリは光を嫌うか)

bd-woodの皆様、

宮崎県木材利用技術センターの藤本です。

昨年投稿しました「[bd-wood:00180] シロアリは光を嫌うか」で間違ったことを書いてしまいました。ここに訂正し、お詫びいたします。

「私はシロアリが紫外光を嫌う性質を利用して、ゴミとシロアリを分ける効率をアップしました」と書きましたが、この方法は使えません。絶対にまねしないでください。

シロアリは254nmのUVライトを照射すると、すぐに死んでしまいます。UVライトのワット数と距離によりますが、5分から20分で死んでしまいます。ほぼ、即死と言っていいと思われます。この場合は腸内原生動物に対する影響ではなく、シロアリ本体に対する影響(おそらく紫外線によるやけど)と思われます。

それ以下の照射時間であっても、吉村先生が述べられているように、腸内原生動物が死滅して、長時間は生きられません。従って、その後の実験に影響するので、いかなる場合でもシロアリに紫外線を照射するのはやめた方がいいと思います。

逆に、この原理を使って、シロアリ対策ができそうです。松下電器産業株式会社の特許公開2001-321055は未審査請求によるみなし取下になっていますが、これをもう少し発展させることができないか考えているところです。

「～藤本英人さんを偲んで～」は、今村祐嗣 京都大学名誉教授の発案により企画・作成したものです。藤本さんのお人柄を反映するかのよう、多くの皆様のご協力をいただきました。

ご遺族の方々に哀悼の意を表するとともに、藤本さんのご冥福をお祈り申し上げます。

2010年9月

発行：日本木材学会生物劣化研究会

構成・編集：日本木材学会生物劣化研究会幹事 森 満範